

発掘成果をふりかえって 2012

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

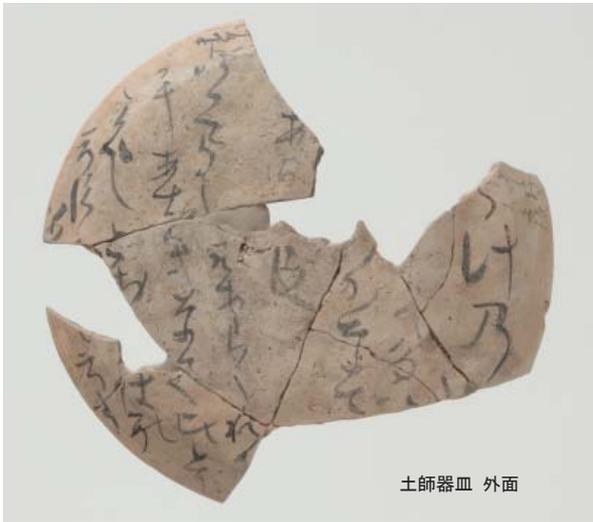
(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



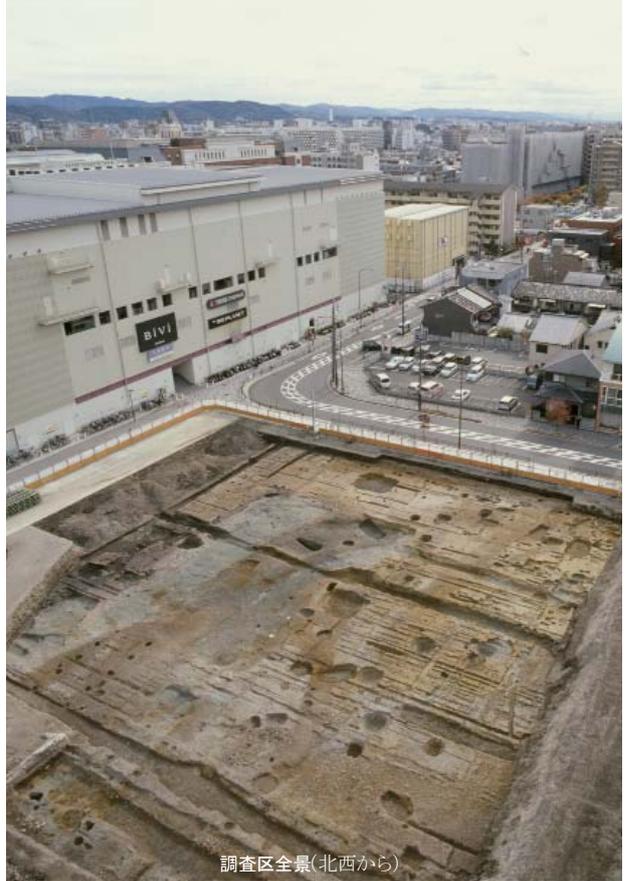
土師器高杯 杯部内面



土師器高杯 脚部側面



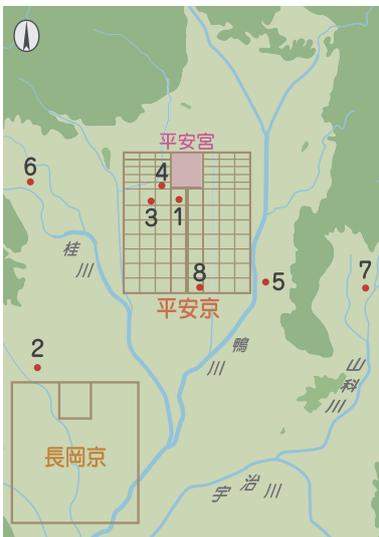
土師器皿 外面



調査区全景(北西から)

1 平安京右京三条一坊六町跡 中京区西ノ京小倉町ほか

JR 二条駅西側で平安時代前期の邸宅跡が見つかった。池跡からは9世紀後半の豊富な遺物が出土し、輸入陶磁器や国産陶器には高級品が多く含まれていた。複数の調査箇所から「三条院」と墨書のある遺物が出土したことから、藤原良相の邸宅である「西三条第」の遺構であると確定した。墨書土器には仮名文字が数多く含まれており、仮名発生期の資料として平安京では最古級の重要な遺物である。



発掘調査の位置



2 寺戸大塚古墳 (北西から) 西京区大枝南福西町二丁目ほか

古墳時代前期に築造された乙訓地域の首長墳として知られている前方後円墳である。これまで墳形は「柄鏡形」とされていたが、今回の調査で、前方部が外側に開いていることがわかった。後方部では、規則的に配置された円筒埴輪が5基見つかった。



3 平安京右京三条三坊四町跡 中京区西ノ京桑原町

平安京内でも最大規模の平安時代前期の掘立柱建物を発見した。底が付く大型の建物で、一辺が1.3～1.7mの方形の柱穴の底には厚さ8～15cmのヒノキの礎板が敷かれていた。



4 平安京右京二条二坊十一町・西堀川小路跡（南から）中京区西ノ京笠殿町

京都地方気象台構内で平安時代前期の西堀川小路に関連する遺構を検出した。西堀川（紙屋川）は平安時代中期以降、桃山時代まで氾濫と堆積を繰り返したとみられる。



5 法住寺殿跡（北西から）東山区下池田町

一橋小学校跡地で平安時代後期の石と粘土を突き固めた建物基礎を発見した。後白河上皇の院御所である法住寺殿の建春門院ゆかりの最勝光院にあたり、阿弥陀堂に付属した建物跡と考えられる。



6 史跡・名勝嵐山（西から）右京区天龍寺芒ノ馬場町

「大井寺」銘の軒瓦（写真右上）を含む平安時代の瓦が大量に出土した。大井寺もしくは檀林寺に関連する遺構と考えられる。これまで不明であった大井寺と檀林寺の解明に貴重な資料を得ることができた。



7 山科本願寺跡（北から）山科区西野山階町

山科本願寺の御本寺跡で室町時代の石風呂遺構が見つかった。石風呂・カマド・三和土・井戸で構成されている。石風呂は地面から約1m掘り下げた構造で、南北約6m、東西3m以上ある。北側が作業室を兼ねた前室、南側が石と粘土で固めた蒸し風呂と推測される。



8 史跡教王護国寺境内 南区九条町

東寺東築地塀の解体修理で、平安時代から桃山・江戸時代を経た、時代ごとの構築工法の違いが明らかになった。